

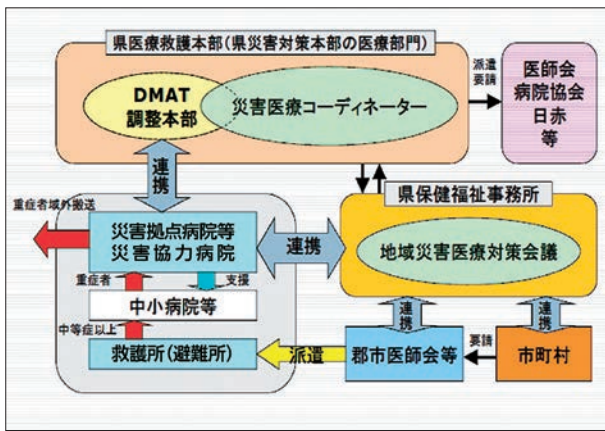
# 災害看護

過去の地震などの大規模災害では、災害拠点病院の役割が果たせないという状況や、激増する医療需要が発生し、多数の傷病者が医療救護所ではなく中小規模病院や診療所に集中したという経緯があります。

中小規模病院や診療所においても、災害サイクルに合わせた支援活動が求められます。

前編(167号)では、「神奈川県災害時医療救護体制」の概要についてお知らせしましたが、今回の後編では、災害時における中小規模病院に焦点を当て「災害時の役割と備え」について紹介します。

図1 神奈川県の災害時医療救護体制



## 1 中小病院の位置づけと役割

神奈川県は、災害時医療救護体制において(図1)、中小規模病院(病床数200以下)の役割を、軽症者の処置、中等症の患者の受け入れを担うこと(図2)としています。被災地内においては、率先して患者を受け入れることが期待されています。

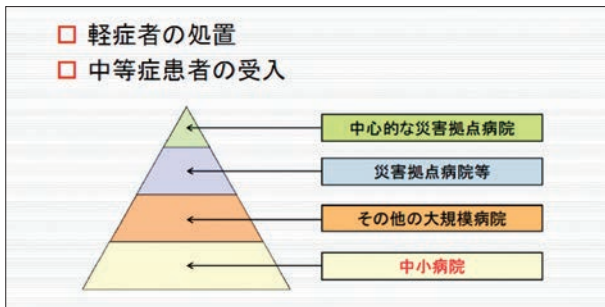
### 1) 行政との連携

発災後は速やかに自施設の被災状況を調べ、EMIS(広域災害救急医療情報システム)等を活用し、被災状況および患者受け入れ状況を報告し、郡市医師会および市町村と連携し周辺地域の傷病者の医療救護活動に協力します。また、需要と供給のバランスから、診療継続が困難となった場合も行政や災害拠点病院へ‘SOS’を発信します。

### 2) 患者搬送

大規模災害では、負傷者が殺到することが想定されます。重症者は、最低限必要な処置を行い災害拠点病院へ搬送します。搬送は、患者搬送用病院車両を利用しますが、利用できない場合は消防機関へ搬送を依頼します。中等症者は、院内に収容し治療に当たりますが、処置能力や収容能力を超える場合は、必要な処置を施し地域の災害拠点病院や災害協力病院等へ転送依頼をします。搬送は、できる限り家人による移動を指示し、不可能であれば消防その他の機関に依頼します。無症軽症と判断された傷病者は、急変時における医療機関への受診を指示して、帰宅あるいは避難所への移動を促します。

図2 中小病院に求められるもの



※図1、図2は平成26年度神奈川県看護協会 災害看護マネジメント研修資料より抜粋

## 2 災害への備え

発災直後の混乱した現場では、より多くの傷病者に対して最善が尽くせるように、どんな現場においても体系的な対応が必要です。それぞれの役割を認識した行動がとれるよう CSCATTT (\*1 災害時マネジメント7つのポイント)などの知識を深めておきましょう。

\*1 詳細は、神奈川県看護協会 HP 内「災害看護」に掲載しています。

### 災害マネジメント7つのポイント CSCATTT

組織体制				医療支援		
C	S	C	A	T	T	T
Command & Control 指揮命令 統制	Safety 安全	Communi- cation 意志疎通 情報収集 情報伝達	Assessment 評価・判断	Triage トリアージ	Treatment 治療	Transport 搬送

出典：「実践！災害看護～看護者はどう対応するのか～」著 野中廣志 昭林社 P4

